

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	むぎのご児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 3月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	77	(回答者数) 64
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供：発達に合わせた活動内容、季節に合わせた活動等。また、職員が適切な関わりを持てるよう研修も含め、取り組みを充実させています。	季節の活動・行事を多く取り入れています。また、子どもが落ち着いて過ごせるようウォッチミープレイや、専門職による個別の関わりを取り入れています。	行事や、活動は前もって役割などを計画して実施しているため、引き続き計画的に実施出来るようにしていきます。また、保護者の方がより様々な活動を行っていると実感出来るよう、こまめに様子の連絡をしたり、活動報告をブログやおたよりなどで発信できるようにしていきます。
2	研修機会の充実：様々な研修の機会を多く持ち、子どもたちと適切に関わる職員の育成機会を充実させています。 また、スーパービジョンや打ち合わせ、1日の振り返りなど職員同士で話す機会を多く持ち、情報の共有をこまめにできるようにしています。	クラスごと・個別での職員のスーパービジョンを行い、支援をする中での良かったこと・難しかったことを話し解決にむけて考える機会を設けています。 職員が子どもと落ち着いて関わるよう、具体的な場面を想定してアンガーマネジメントや肯定的に関わる練習を朝の職員の打ち合わせ時に行っています。	スーパービジョンの実施を継続し、職員が子どもたちと関わる際に感じたことを職員同士で話しながらチームで支援をしていけるようにします。
3	家族支援：家族支援が必要な家庭に関係機関と連携したり、面談を定期的に行い、必要な支援に繋がれるようにしています。	月に一回面談を行えるよう、面談予定を周知し、都合が悪く際には保護者が来園できる日に再調整をして保護者と話す機会を設定しています。	引き続き、面談を定期的に行い、家庭と事業所での様子を共有して安心して通所できるように努めていきます。来園することが難しい家庭には家庭訪問やこまめな電話連絡での支援行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関や保護者との連携	関係機関との連携は充実しているが、地域の幼稚園・保育園・児童発達支援事業との連携の機会をより多く持つと、地域支援の充実につながると感じています。 また保護者と子どもの状況を伝え合う中で、グループカウンセリングや学習会により参加出来るよう誘っていく事で、これまで以上に家族の困り感をキャッチし、必要な支援に繋がっていきたくと考えています。	幼稚園・保育園に積極的に連携出来るよう働き掛ける。中核機能について知ってもらふ事も含めて、やり取りしていきます。 保護者がグループカウンセリングや学習会に参加出来るよう、クラス担任等から前以て誘ってもらえるよう声掛けをしていきます。その中で困り感をよりキャッチするよう働き掛けます。 保護者との連絡・情報共有をよりこまめに行なえるよう、職員全体で心掛けていく事が必要です。